

**第2回学産官連携協議会の共有
及び
これまでの学業充実WGの振り返り**

安全安心WGの検討状況と今後の方針

安全安心WGの目的・全体像

大学の運動部活動における安全性の確保や学生アスリートを始めとした関係者が安心して活動できることを目指し、日本版NCAAがどのような支援を実施すべきかについて検討を進めることを目的とする。

本WGの目的

- 学生アスリート及び指導者を取り巻く安全安心の現状・課題について洗い出す
 - ✓ 学産官の各参加者が現状の学生アスリート及び指導者の安全安心に関する課題を理解し、対策に向けて前向きに討議する状態を目指す
- 課題を理解し対応すべき内容の優先付けを実施する
 - ✓ 課題を理解した上で、安全安心に関する対応策を打ち出し、クリティカルな課題から着手する優先度付けができる状態を目指す
- マネジメントWGに引き継いで議論すべきテーマをまとめる
 - ✓ 推進する上で障壁になり得る論点を抽出し、一部具体化に向けた進め方を討議している状態を目指す

本WGの全体像

第1回 WG

「学生アスリート等が安全・安心に活動できる環境を整えるために各主体が果たすべき役割」

第2回 WG

「予防をテーマとした、日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針」

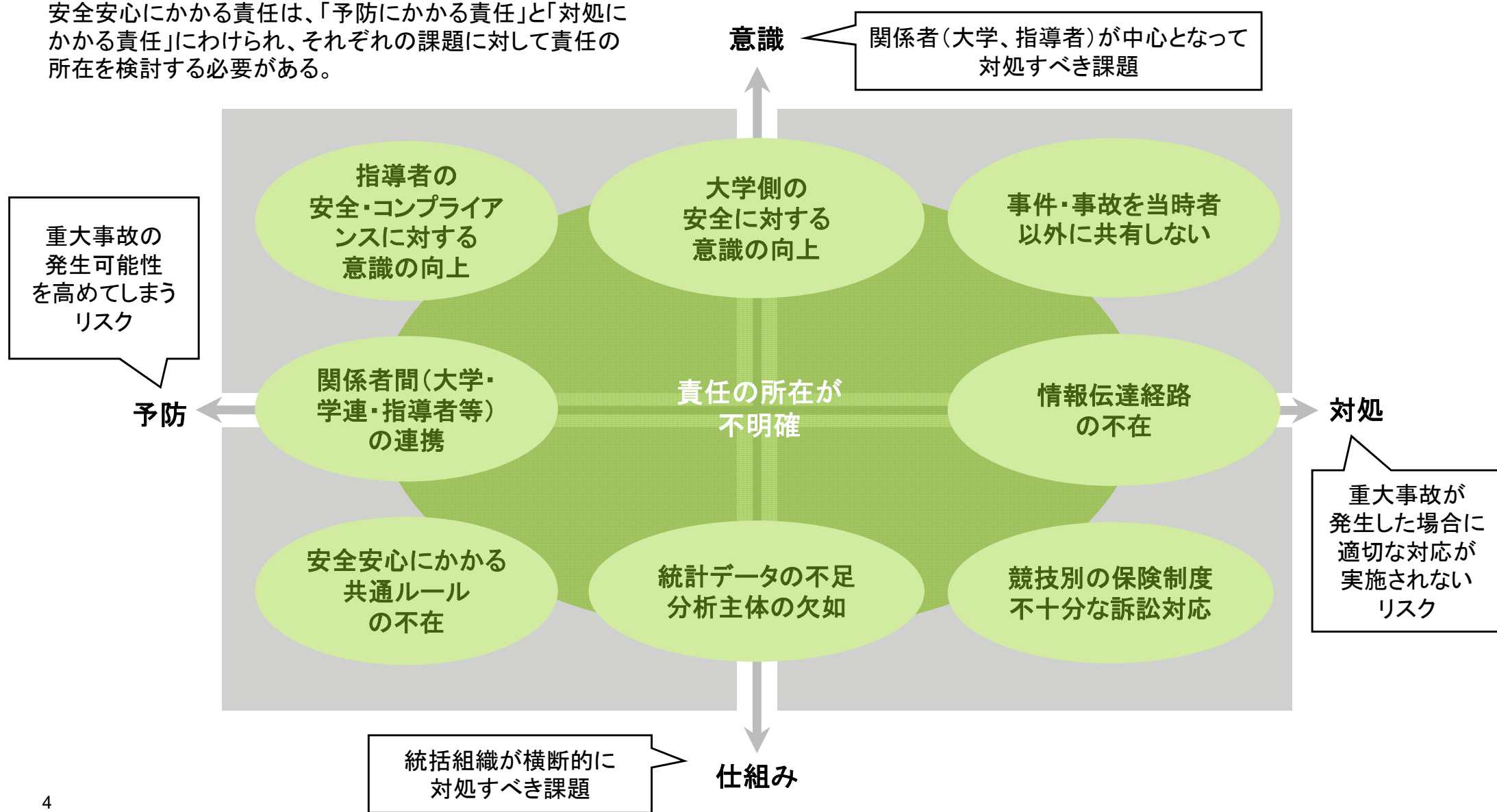
第3回 WG

「事後の対処をテーマとした、日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針」

第1回安全安心WGの議論の整理

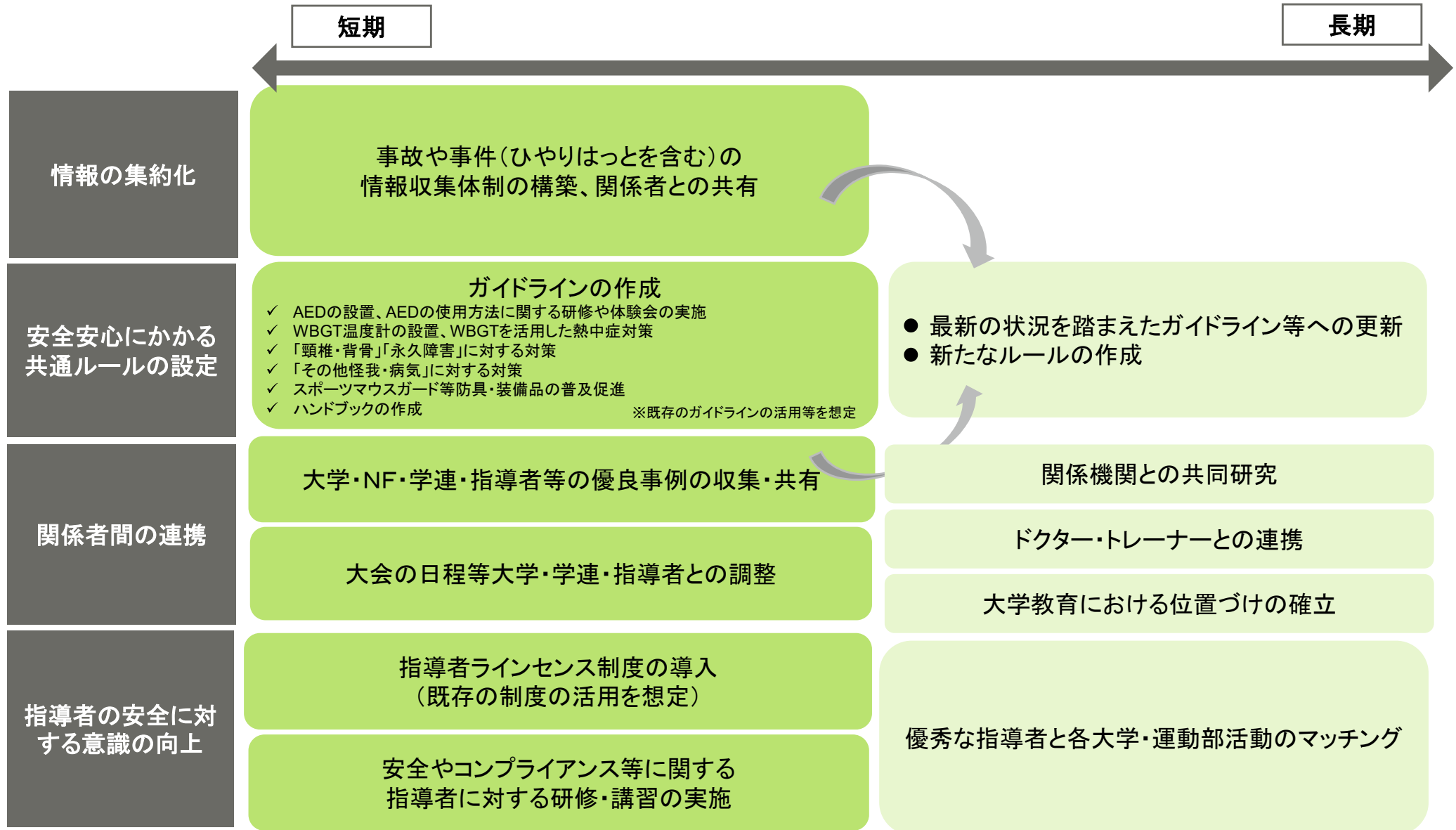
「学生アスリート等が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと」について議論されました。認識された課題は意識の問題から構造的な仕組みの問題に分けることができ、根本には責任の問題があります。

安全安心にかかる責任は、「予防にかかる責任」と「対処にかかる責任」にわけられ、それぞれの課題に対して責任の所在を検討する必要があります。



第2回安全安心WGの議論の整理

第2回WGでは、日本版NCAAが整備すべき安全安心に関する取り組みに関して、直ぐにでも整備をすすめるべき分野から、中長期的に整備をすすめるものまで、広く議論がおこなわれた。



第3回安全安心WGの議論の範囲

次回は、事後の対処として、事故が起きた際の「適切な対処方法」、次の予防につなげるための「情報収集・分析」及びダメージを最小限にするための「保険制度の活用」について、討議する予定です。

第2回WG

第3回WG

予防

- 共通ルールの導入
- ガイドライン・ハンドブックの作成・配布
- 指導者への安全や医療に関する研修の実施
- ドクターやトレーナーの現場への配置
- 医療機関、大学間の連携
- 重大事故及び多発する事故に関する事例集の公開

医療体制の構築と監督機能の強化

事故

事後の対処

- 事故が起きた際の対処方法の確立（適切な連絡経路、応急処置等）
- 事故が起きた状況、対処方法、事後の経過に関する情報収集と分析
- 保険制度の活用
- 訴訟対応

再発防止策の徹底

フィードバック

マネジメントWG

マネジメントWGの検討状況と今後の方針

マネジメントWGの目的・全体像

日本版NCAAのガバナンス体制の具体化とサステイナブルな運営体制の見直し確立を目的とする。
2018年3月の第3回総会における日本版NCAAの設立趣意書案の提示を目標として検討を進める。

本WGの目的

- 大学スポーツにおける**日本版NCAAのあるべき位置付けや運営体制**を整理する
 - ✓ 日本版NCAA創設後の大学スポーツにおける各ステークホルダーの役割・機能と範囲、および、その中での日本版NCAAの運営主体・体制が整理された状態を目指す
 - ✓ 学長会合の組成に向けた機運の醸成を目指す
- 日本版NCAAの**安定的・自立的な運営体制の見直しを確立**するための具体的な計画の検討を行う
 - ✓ 学業充実WG、安全安心WGでの討議結果を受け、日本版NCAAに求められる機能・運営体制に対して、創設後に最低限必要なコストと、コストを賄うための資金獲得手段(初期的収支計画)が整理された状態を目指す

本WGの全体像

第1回
WG

「日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割」

第2回
WG

「NCAAを活用した大学スポーツの活性化に向けた具体的施策」

第3回
WG

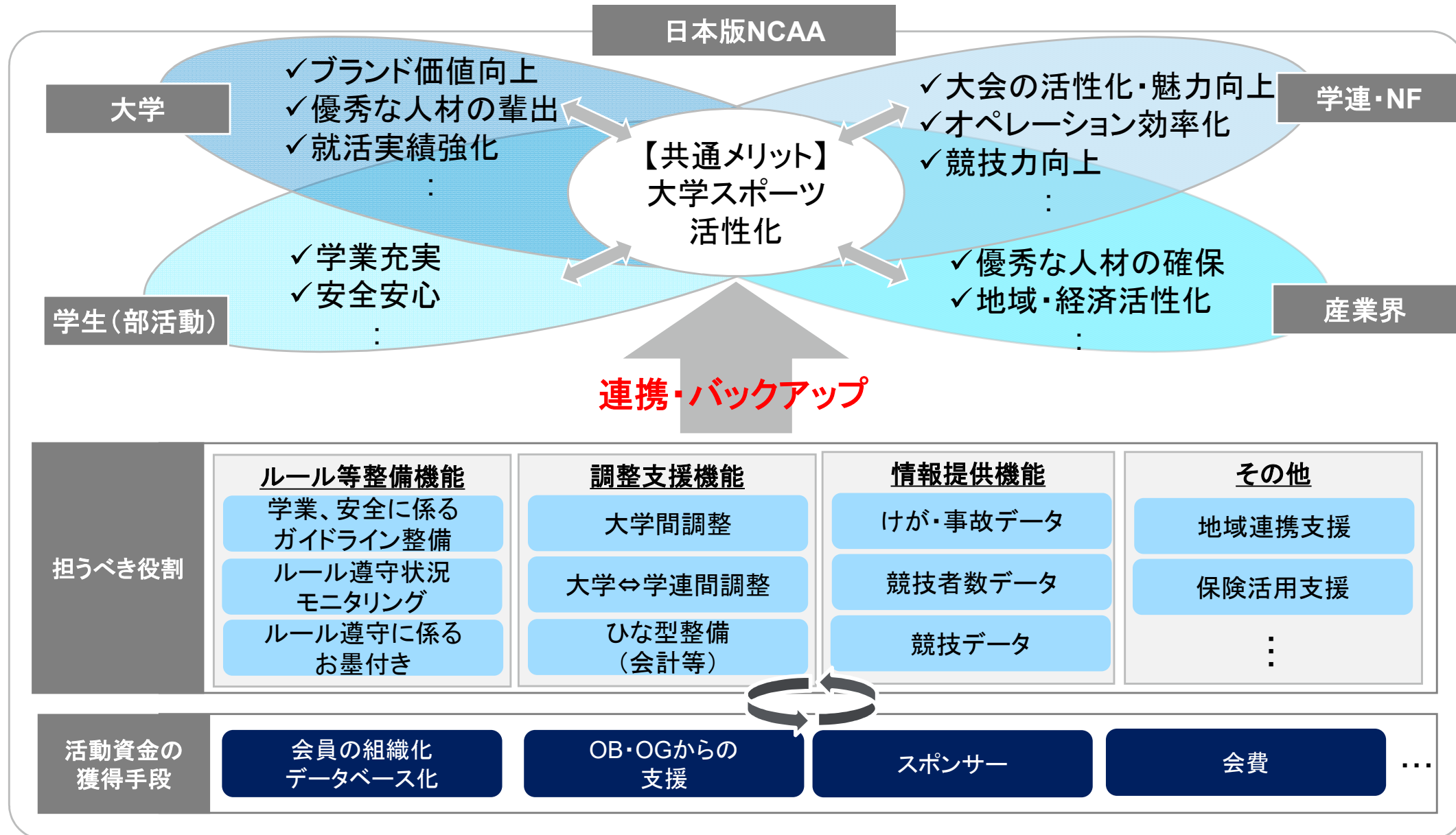
「必須機能維持を前提とした日本版NCAAの組織運営方針」

第4回
WG

「目指すべき将来像と来年度以降のロードマップ案」

第1回マネジメントWGの議論の整理：日本版NCAAの役割・機能とメリット

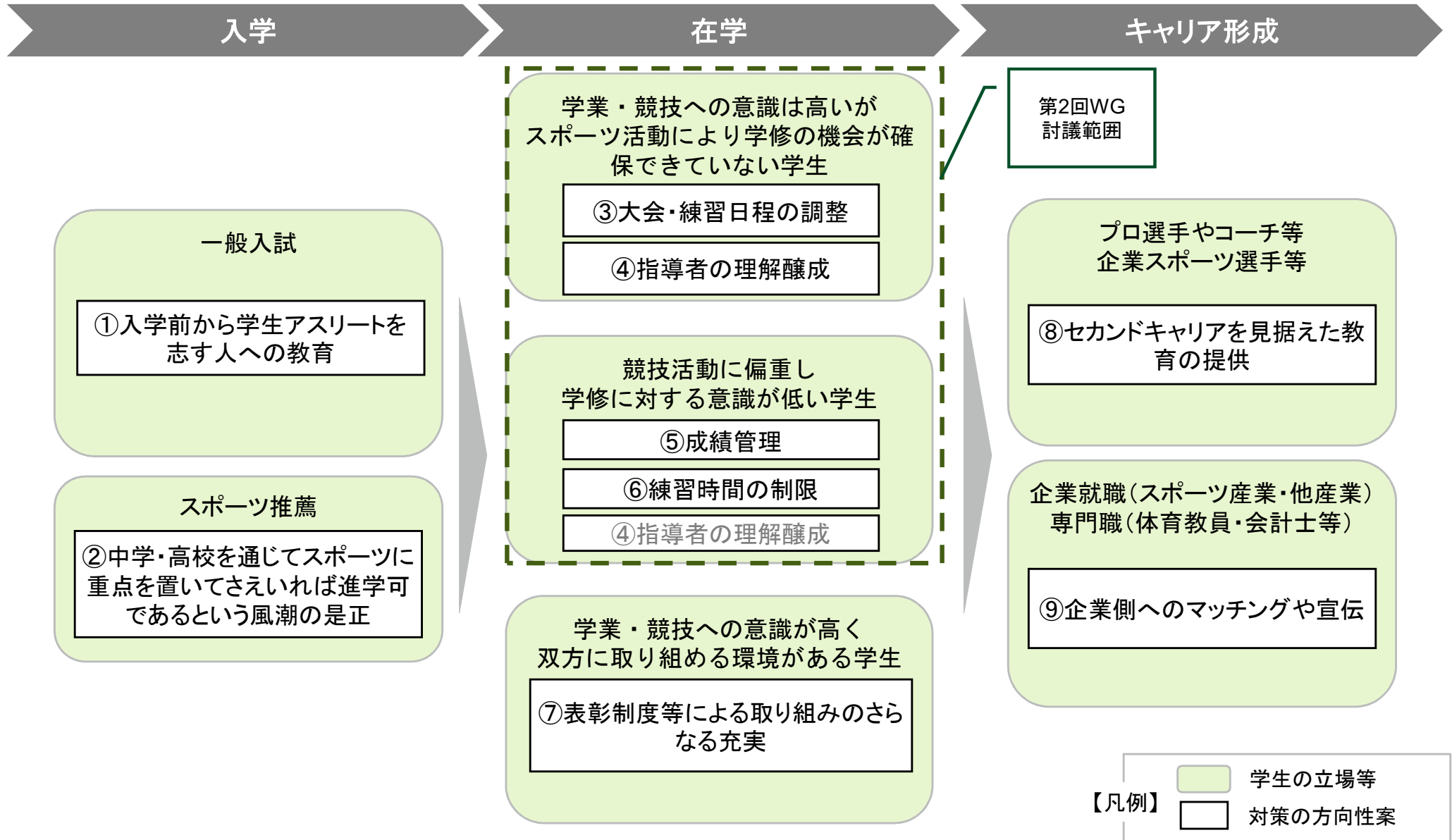
日本版NCAAはルール等整備機能、調整支援機能、情報提供機能等を担い、関係者の取組の連携やバックアップ支援を行うことにより、大学、学生、学連・NF界等の関係者が多様なメリットを享受できるものとする。



第二回学業充実WGまでの振り返り

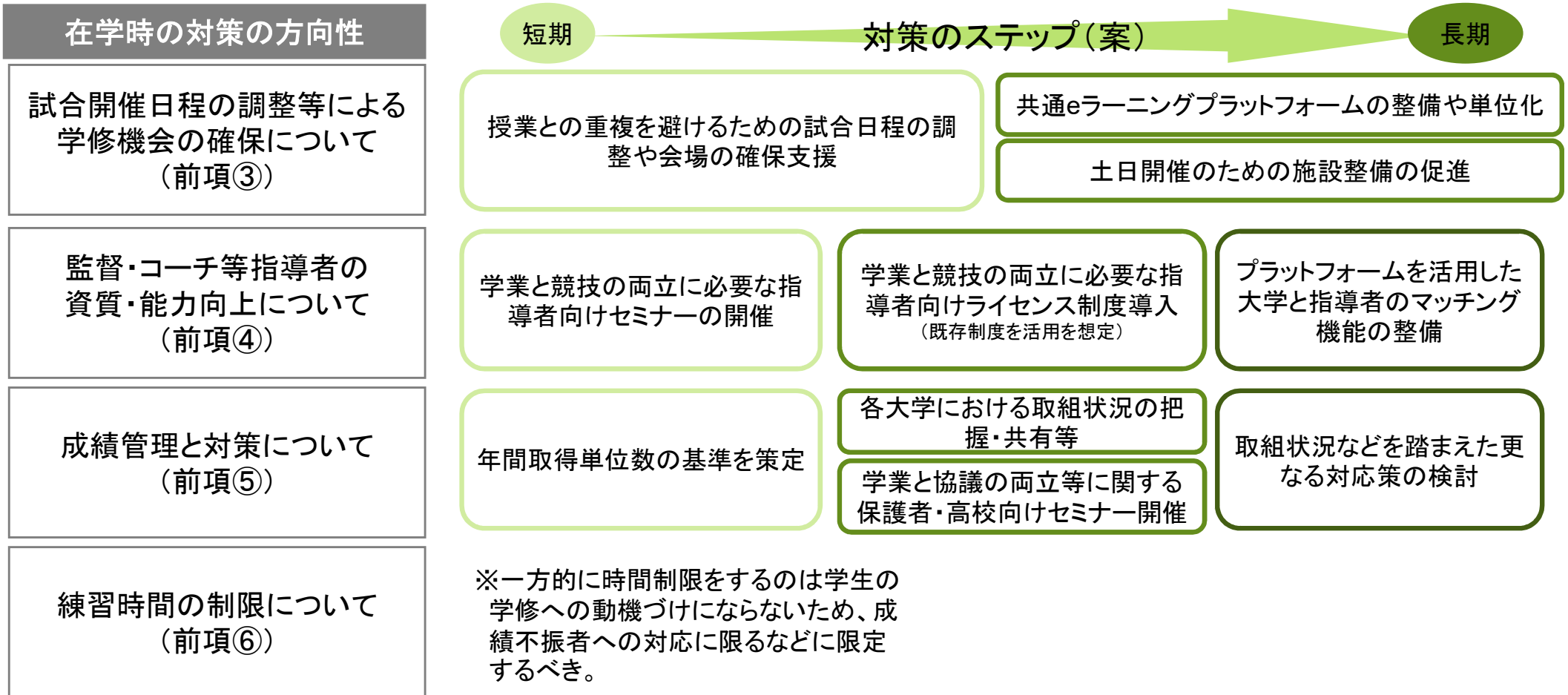
第1回学業充実WG「学生アスリートが置かれている環境・課題の整理」の議論の整理

学生の意識(学生の入学方法や卒業後の進路等に起因)や置かれている環境に応じて求められる対策が異なる事が議論された。時期や立場に応じた対策を講じることで学業と競技を高いレベルで両立できるのではないか。



第2回学業充実WG「在学中に実施すべき対策案と日本版NCAAの役割」の議論の整理

在学時における対策の具体化と短期対策・中長期的対策が討議を通じて提示された。



【他、マネジメントWGへの申し送り事項】

- 大学コミュニティ形成や愛校心の醸成について
学内で試合の情報が少なく、学生アスリートと一般学生の交流が少ないので、コミュニティ形成やブランド統一などを通じた愛校心の醸成の手法については検討すべき
- 資金の獲得方法
日本版NCAA自体の活動資金は勿論、各大学でも学内整備等に資金が必要であるため、それぞれが学生スポーツを通じた資金調達方法の確立を目指すべき
- 各大学での整備
日本版NCAAは基準や目安を策定しモニタリングを実施する事が主になると考えるため、規程遵守のためにも各大学側の組織・体制の整備が必要ではないか